

取扱説明書



ラジエターリークテスター (国産車+外車対応)

注文コード:05781798

このたびは、ラジエターリークテスター(国産車+外車対応)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。



警告

**この表示内容を見逃して誤った使い方をした場合は
死亡や重症等の重大な傷害に結びつく可能性があります。**

- 本商品は水冷エンジンの冷却水もれの場所を特定するための専用工具です。
本来の用途以外での使用は絶対にしないでください。
- 使用前には必ず圧力ポンプやホース、その他アダプターに破損や不具合が無いかを必ず確認してください。
- 必ずエンジンが停止した状態且つ、冷却水が冷めた状態で作業を行ってください。
エンジン(冷却水)が冷めていない状態での作業は冷却水の噴き返しや、やけどの恐れがあるため大変危険です。
- 圧力のかけ過ぎは絶対にしないでください。一般的な国産車の目安は最大で130kPa程度で調整して下さい。過度の加圧は冷却系の破損につながります。
- 冷却水がヒーターコアから漏れている場合は室内に冷却水が漏れだすおそれがありますので十分ご注意ください。
- 冷却水が不足している際は、テストを行う前に必ず補充を行ってください。
不足した状態では正確な点検ができません。
- 減圧の際はリリースバルブから冷却水が噴き出す場合があるので十分注意し慎重に行ってください。
- ご自分で分解や修理、改造は絶対にしないでください。
- ご使用の際は必ず保護手袋と保護メガネを着用してください。
- 冷却水には人体に有害な成分が含まれます。目や口に入らないように十分注意してください。

注意

この表示内容を見無視して誤った使い方をした場合は人的傷害や製品の破損、その他の物的損害へつながる可能性があります。

- 使用後は必ずきれいに清掃してから専用ケースに収納してください。
- 冷却水が衣服や塗装面に付着した際は、直ちに流水で洗い流すか拭き取ってください。
- テスト後、冷却水が噴き返したりこぼれた際は、冷却水を補充してからキャップを締めてください。

●セット内容 圧力ポンプ アダプター



●適合アダプター ※下記適合表は一例です。車種や年式によっては使用できない場合があります。

番号	品名	適合車種(一例)※
1	ポンプ	
2	青アダプター	Skoda, SAAB, Ford, Daewoo, Audi A4, A5, A6
3	黄アダプター	Skoda, Seat, Audi, Opel, VW, Ford
4	赤アダプター	Seat, Alfa Romeo, Audi, BMW
5	オレンジアダプター	Land Rover, BMW
7	アダプター	Lancia, Volvo, Land Rover, Renault, Peugeot, Opel, Honda, Fiat, Citroen, Audi, VW
8	調整アタッチメント	Toyota, Suzuki, Nissan, Mitsubishi, Mercedes, Chrysler, Citroe
9	50mm アタッチメント	番号 8 と一緒に使用 (日本車, 欧州車用の各該当車種)
10	35mm アタッチメント	番号 8 と一緒に使用 (日本車: Suzuki/Nissan/Mitsubishi, 欧州車用: Chrysler/Citroen/Mercedes)
11	27mm アタッチメント	番号 8 と一緒に使用 (日本車: Suzuki/Nissan/Toyota, 欧州車用: 該当車種)
13	アダプター	Kia
14	クリップ	番号 8 及び番号 9 ~ 11 と一緒に使用 (Toyota, Suzuki, Mitsubishi, Nissan 車)
15	アダプター	Honda, Toyota
16	アダプター	Opel, Hyundai, Honda, Mitsubishi, Ford, Nissan, Mazda, Toyota
17	緑アダプター	GM
18	アダプター	GM, Ford

使用の手順

冷却水漏れの確認

※必ずエンジンが停止した状態且つ、冷却水が冷めた状態で作業を行ってください。
エンジン（冷却水）が冷めていない状態での作業は冷却水の噴き返しや、
やけどのおそれがあるため大変危険です。

ラジエターキャップを車両から外して各種のアダプターの中から
適合するサイズのアダプターをセットします。（下図③、③-2参照）

①



②



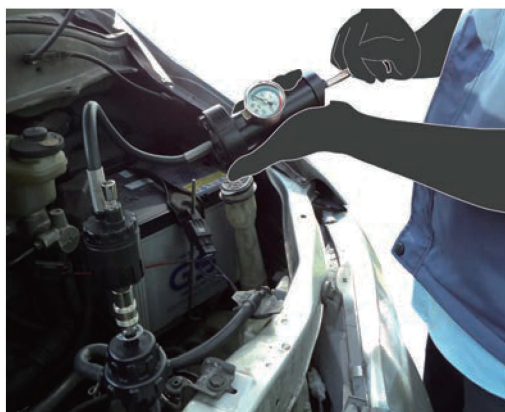
③



③-2



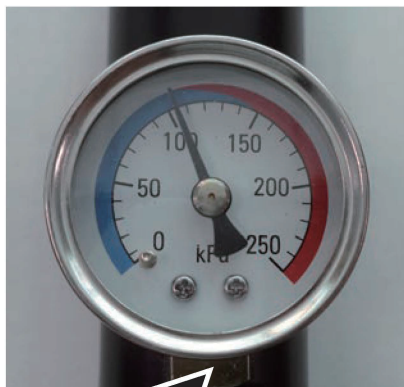
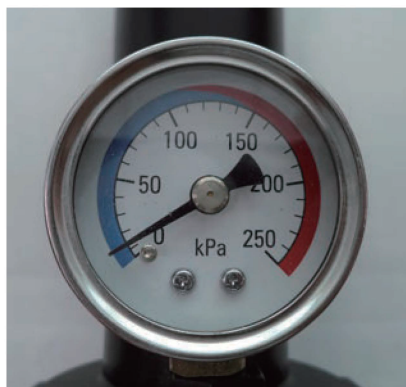
④



④-2



圧力ポンプを
アダプターに
取り付けてください。
（④、④-2参照）



最大圧力がゲージの
130kPaを超えないよう
圧力計の数値に十分注意し、
慎重に加圧（ポンピング）してください。
（左図参照）

※圧力のかけ過ぎは絶対にしないでください。

一般的な国産車の目安は最大で130kPa程度で調整してください。

過度の加圧は冷却系の破損につながります。

※もし冷却水漏れを起こしている際は、加圧した圧力で冷却水が漏れてくるので簡単に漏洩している場所を見つける事が可能です。

※冷却水がヒーターコアから漏れている場合は

室内に冷却水が漏れだす恐れがありますので十分ご注意ください。

※必ずエンジンが停止した状態且つ、冷却水が冷めた状態で作業を行ってください。

エンジン（冷却水）が冷めていない状態での作業は冷却水の噴き返しや、やけどのおそれがあるため大変危険です。



点検が終了したらホースのリリースバルブを開いて（ボタンをプッシュ）、慎重に圧力を抜いてから接続と逆の手順で取り外してください。（左図参照）

※減圧の際はリリースバルブから冷却水が噴き出す場合があるので十分注意し、慎重に行ってください。

※テスト後、冷却水が噴き返したりこぼれた際は、冷却水を補充してからキャップを締めてください。

※こぼれた冷却水は水道水で洗い流すようお願いします。